

日本ニュース

シネスコ版

道新 1101 本編同じ
 高知新 110276
 新愛媛 1104
 甲口新 11017

No. 441

37.6.29

11012 (本編トッパ追加)

古式ゆたかに 不況用種之 一島生 11012

夏のライン

一、水上スキー

箱根芦ノ湖に造られたマリーナの店開きを飾っている水上ベージュントがこのほどにぎやかにひらかれました。
 本場のアメリカから今年十八才になるビッキー・パン・クックさんも招かれて出場。さすがは選手権保持者だけあって、見事な妙技を湖上いっばいに披露しました。

— 芦ノ湖、熱海

一、追いつめられたコンブ漁

ここは日本のさいはて、北海道のノサップ岬。ここに住む六百戸千百人の漁民たちは、戦前からコンブ漁を生業としてきました。それ故、今もソ連の占領下にある貝殻島周辺に出漁し、すでに五月十日の解禁以来十二隻、二十六人がつかまっています。漁場である貝殻島は、ソ連の庄賑する領海内にあり、したがってそこでの操業は越境であり密漁であるというもの。それでも食うためにはつかまることが覚悟で出漁していくのです。十八日には、西村根室市長をはじめ陳情団が上京、関係各庁に現地の窮状を訴えましたが、逆に危険な操業はやめるよう自粛を要望されるなどきびしい返事だったということです。
 しかし、零細なるが故に沿岸漁業にしか生きるすべをもたない漁民達は、一日も早い安全な操業を必要としているのです。

— ノサップ岬

アイモ風土記

一、恐怖の伊那谷

— 長野

集中豪雨による空前の大水害から一年。伊那谷はその打撃からほとんど回復していません。今なお陸の孤島となっている中川村四徳では水害をまぬがれたわずかの畠で八十一才の老人が鋤をふるっています。この老人は家族を町へ移住させ自分は一人部落に残り自給の食糧をさきやかに作っているのです。死ぬまで働きつづけるこの老人の姿は苦境に立つ伊那谷災害地の象徴的な姿といえましょう。
 災害地の復旧工事は全体にひどく遅れており、梅雨どきを迎えながら全くの無防備状態。住民たちは水への恐怖にたまりかねて集団移住を望んでいます。が国家補助がお流れになって恐怖の毎日を過しています。その上、ようやく移住できた人も一家そろって日夜働きつづけている状態です。今年もまた梅雨の季節を迎えて地滑りのつづく伊那谷。住民たちはいつになったら災害から逃がれることができるのでしょうか。

70712

72612

26412

4712